

野村アセットマネジメント株式会社：「自然関連協働エンゲージメントにおけるリードインベスターとしての取組」

背景・目的

野村グループの資産運用会社である野村アセットマネジメント株式会社（以下、野村 AM）は、現在の責任投資委員会（責任投資に関わる最高意思決定機関）のルーツである議決権行使委員会を 2001 年に設置して以降、責任投資に取り組んできた。2011 年には責任投資原則（以下、PRI）に署名、PRI 署名機関として同年、ESG 委員会（自社で投資判断を行う ESG 投資の品質管理を担う組織）を設置し、2014 年に日本版スチュワードシップ・コードについても受入を表明（再改訂されたコードへの受入表明は 2020 年 8 月）。2016 年には ESG 投資専門部署である責任投資調査部を設立した。

○PRI での活動

同社は、PRI における複数の諮問委員会（Advisory Committee）やワーキンググループに参加しており、さらにリードインベスターとしても活動するなど、近年、PRI の活動を積極的にサポートしている。

具体的には、2022 年 12 月に発足した PRI Advance（人権・社会課題に関する協働イニシアチブ）の諮問委員会委員となり、リードインベスターとして特定企業へのエンゲージメントを主導。2023 年には、日本での PRI による活動の周知・活性化をサポートする PRI Japan Advisory Committee 委員に就任、PRI Spring（自然資本・生物多様性に関する協働イニシアチブ。2023 年 10 月発足）においても諮問委員会委員となり、協働エンゲージメントのフレームワーク構築や、対象企業との対話において主導的に貢献している。

なお、PRI Spring の諮問委員会は、自然関連分野における PRI の戦略および実行について、PRI に対しアドバイスをを行うことを目的としており、世界中の署名機関から選出されたメンバーで構成されている。

<Advisory Committee 委員の選出方法および任期>

PRI Spring の諮問委員会は、署名機関の個人が立候補し、PRI 事務局による選考（環境分野における専門性、地理的バランス等を考慮）の上、選出される。同社からは運用部の山脇大シニア・ポートフォリオマネージャーが委員として選出されている。

PRI Spring の Advisory Committee 委員の任期は最大 5 年間である。

<リードインベスターの選任>

リードインベスターについては、署名機関が立候補し、PRI 事務局による調整を経て、就任することになる。そのため、希望したとしても、多くの署名機関がリードインベスターに手を挙げた場合には、PRI 事務局による調整でリードインベスターに就任できない可能性もある。リードインベスターは、ターゲット企業毎に最大 2 社までとなっている。

○PRI Spring での活動

PRI Spring は、2030 年までに生物多様性の損失を食い止め、逆転させるため、投資家の行動と機運を高めることを目的としている。

野村 AM は、2024 年 6 月、Spring においてリードインベスターとしても活動を開始した。Spring に賛同している日本の組織は 16 社、このうちリードインベスターは 2 社、そのうちの 1 社が野村 AM である（2024 年 12 月 10 日現在）。リードインベスターには、対象とする企業のエンゲージメント戦略を支援する役割が与えられている。

Spring は 2024 年 6 月、選定した 40 社とエンゲージメントを開始した。Spring に賛同している 204 の投資家のうち、66 の投資家が、これら 40 社とのエンゲージメントに積極的に参加すると発表した（2024 年 6 月現在）。

これら 40 社は、世界の重要かつ繊細な生態系での土地利用の動向を方向づける政策プロセスに対して、最も影響力のある企業として選定された。40 社のなかには、ここ数十年のあいだに森林減少およ

び土地劣化の最大の原因を作った食品・農業分野の企業に加え、鉱業、自動車、化学、銀行も含まれている。

野村 AM は、40 社のうち、日系企業 2 社（日産自動車株式会社、トヨタ自動車株式会社）向けのエンゲージメントにおいて、リードインベスターに就任した。国内の機関投資家で、日系企業向けのリードインベスターを務めるのは、同社のみである。

なお、Spring でのエンゲージメントの活動は無償で行われている。

概要

○PRI Spring でのリードインベスターとしての活動内容

選定された主要投資先企業 40 社それぞれにリードインベスターがつく。40 社に対するエンゲージメントは、リードインベスターが中心となり、Spring に参加する機関投資家との協働のもと、実施することとなっている。

PRI では 40 社それぞれについて小規模なインベスターグループの会合を開催し、建設的なエンゲージメント戦略を策定することとしている。

エンゲージメントの内容は、2024 年 12 月に公表された企業評価フレームワーク（Company Assessment Framework：以下、CAF）に基づいて、今後、サブインベスター、PRI 事務局と調整した上で、実際のテーマを決めていくことになる。Spring が重点を置いている森林破壊や土壌汚染に係る環境の視点、また TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）への取組といった関連する視点が追加される可能性がある。

CAF の内容は、具体的には、ワールド・ベンチマーキング・アライアンス（WBA: World Benchmarking Alliance）が開発したネイチャー・ベンチマークの分野横断的な指標に基づき、事業運営・戦略・リスク管理・サプライチェーン・マネジメントについて、対象企業のパフォーマンスを追跡調査するというものになる。

また、「方針・ガバナンス・情報開示」と「実施」の二つの主要分野に基づいて、「責任ある政策エンゲージメント（Responsible Political Engagement：RPE）」に関する対象企業のパフォーマンスについても追跡調査する。

リードインベスターは Spring に参加する機関投資家とともに、企業の 1) 事業活動とリスク管理、2) サプライチェーン管理、3)（企業が実施する）政策エンゲージメント、において自然へのインパクトと自然破壊によるリスクを改善していくことを目的として、企業とのエンゲージメントを実施する予定である。

Spring では、森林破壊や土壌汚染を行っている企業にエンゲージメントする、というネガティブなものではなく、森林破壊や土壌汚染の解決に向けた政策エンゲージメントを行うにあたり、当該領域の政策に影響力がある企業が選出されている。例えば、加盟している業界団体における積極的姿勢等、様々な形で責任ある関与が実現できると、野村 AM は考えている。

実績

Spring でのリードインベスターとしての野村 AM の取組は始まって間もない。そこで、以下、同社のエンゲージメントの方針および実績について記述する。

同社のエンゲージメントの実績は、2023 年度通年で、エンゲージメント・ミーティング数 911 件、取扱ったエンゲージメント・テーマ数は 2,086 テーマであった。テーマ数 2,086 のうち環境分野は、16% を占める。

責任投資の 3 つの手法「エンゲージメント」、「議決権行使」、「ESG インテグレーション」のうち、同社は「エンゲージメント」を、スチュワードシップ責任を果たすための最も有力な手段の一つと位置付けている。そのうえで同社は、エンゲージメントについて、「会社に対する深い理解を基礎にし

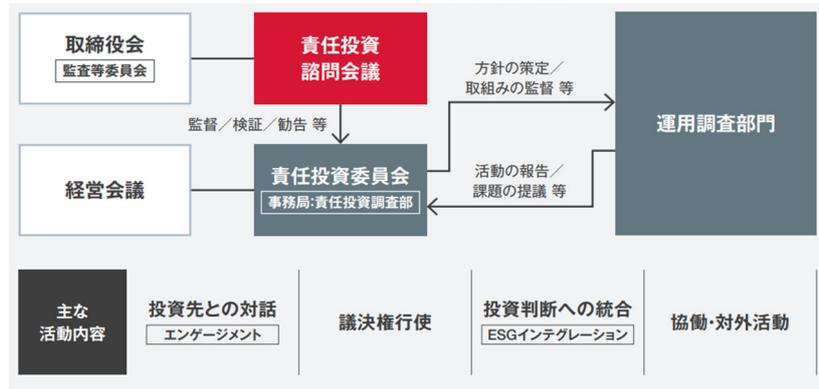
つつ、企業が望ましい経営を行ない、企業価値向上と持続的成長を実現できるよう働きかけること」（野村 AM ウェブサイト <https://www.nomura-am.co.jp/special/esg/engagement/>）と定義している。

取組を実施するにあたっての組織の方針や体制

Spring の枠組みにおける上記の日系企業 2 社に対するエンゲージメントは、従来のエンゲージメントと同様、以下の実施体制およびプロセスで実施される。

責任投資に関わる最高意思決定機関である責任投資委員会（図表 1 参照）で策定した「運用における責任投資の基本方針」において定めている「エンゲージメントの基本方針」に則って、エンゲージメントを実施している。

図表 1：責任投資における組織体制



出典）野村アセットマネジメント株式会社『責任投資レポート 2023』

責任投資委員会で、同基本方針に基づくエンゲージメントの重点テーマを決定し、これに沿って、運用調査部門で、グローバル・リサーチ部のアナリストおよび責任投資調査部（スチュワードシップ活動や ESG 調査等を専門的に担う）の ESG スペシャリストが中心となり、エンゲージメントを実施している。なお、統括部署は、エンゲージメント推進室（2021 年 11 月発足、図表 2 を参照）である。

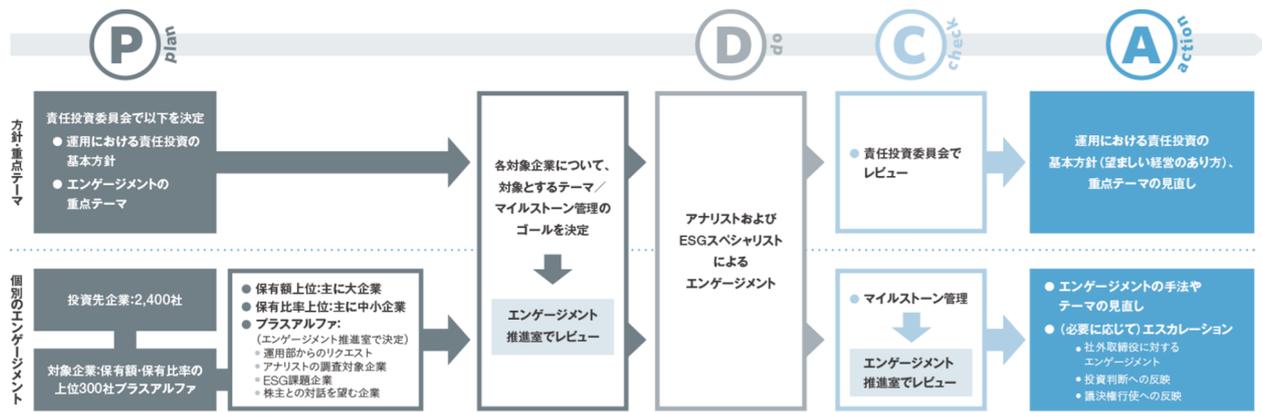
個別のエンゲージメントにおいては、マイルストーン管理（明確なゴール及び達成まで、3 年の期限を設定）を採用している。

なお、野村 AM は、投資先企業の財務情報および ESG 課題への対応状況等を的確に把握するため、経験豊富かつ多様なアナリストを多数擁するインハウス・リサーチ体制（ESG に限らず、財務・非財務全般に関わる調査体制）を有している。

同体制は、複数の部署が関係しており、議決権行使には責任投資調査部、エンゲージメントにはグローバル・リサーチ部、責任投資調査部、エンゲージメント推進室、ESG インテグレーションには運用部、グローバル・リサーチ部、責任投資調査部等が横断的に関与している。

Spring でのリードインベスターとしてのエンゲージメントは、図表 2 と同様のプロセスで行われる。なお、マイルストーンの設定等については、Spring においてサブインベスターや PRI 事務局と調整済のエンゲージメントテーマが、影響する可能性はある。

図表 2：エンゲージメントのプロセス



出典) 野村アセットマネジメント株式会社ウェブサイト

取組の今後の計画・広がりについて

2024年中に日産自動車およびトヨタ自動車と顔合わせを含む初回のミーティングを実施。具体的なエンゲージメントテーマの設定や企業とのミーティングについては、2025年以降に本格化していく見込みである。

Springでは今後、不二製油株式会社とのエンゲージメントも予定している(野村AMはサブインベスターとして立候補している(2024年12月現在))。

課題と課題解決のヒント、工夫した点、苦労した点

PRI Springに限らず、自然資本・生物多様性分野は投資コミュニティにとって比較的新しい領域であるため、投資家側でも、協働エンゲージメントを通じた適時適切な情報収集や継続的なピア学習が不可欠であると、野村AMは考えている。

一方で、投資先企業側も自然資本・生物多様性分野での十分な体制整備が(少なくともここ数年で発展してきた気候変動への体制と比べて)されていないため、アクションが取りづらい印象があるとしている。

同社としては、自然資本および生物多様性分野におけるエンゲージメント活動を通じて、投資先企業の取組を促進し、長期的な企業価値と社会の持続可能性の向上に貢献していきたいと考えている。そのため、PRI Springに限らず、様々な自然資本・生物多様性関連の会合へ出席、投資家としての取組を広く発信することを心掛けている。

<参照・引用したWEBサイト等>

- 野村アセットマネジメント株式会社(2011.3.1)「国連PRIへの署名について」
<https://www.nomura-am.co.jp/market/marketcomment/201103011.pdf>
- 野村アセットマネジメント株式会社(2024.2.8)「責任投資原則(PRI)の自然関連イニシアティブ「Spring」への参加」
<https://www.nomura-am.co.jp/news/20240208NAM.pdf>
- 野村アセットマネジメント株式会社(2024.6.27)「野村アセットマネジメントが日系企業2社向けの自然関連協働エンゲージメントにおけるリードインベスターに就任」
<https://www.nomura-am.co.jp/news/20240627NAM.pdf>
- 野村アセットマネジメント株式会社『責任投資レポート2022』
https://www.nomura-am.co.jp/special/esg/pdf/ri-report2022_all.pdf
- 野村アセットマネジメント株式会社『責任投資レポート2023』
https://www.nomura-am.co.jp/special/esg/pdf/ri-report2023_all.pdf
- 野村アセットマネジメント株式会社ウェブサイト「エンゲージメント」
<https://www.nomura-am.co.jp/special/esg/engagement/>

- ・ 野村アセットマネジメント株式会社ウェブサイト「日本版スチュワードシップ・コード」
https://www.nomura-am.co.jp/special/esg/responsibility_investment/stewardship.html
- ・ 野村ホールディングス株式会社『野村グループサステナビリティレポート2024』
<https://www.nomuraholdings.com/jp/investor/library/ar/sustainability/2024/pdf/all.pdf>
- ・ Steinweg, T. (2024.2.7) Action on nature: Spring announces first batch of focus companies (PRI ブログ)
<https://www.unpri.org/pri-blog/action-on-nature-spring-announces-first-batch-of-focus-companies/12123.article>
- ・ PRI ウェブサイト (2024.6.26) ニュース「Investors engage with corporates on nature policy influence as systemic risks grow」
<https://www.unpri.org/news-and-press/investors-engage-with-corporates-on-nature-policy-influence-as-systemic-risks-grow/12523.article>
- ・ PRI ウェブサイト「spring」
<https://www.unpri.org/investment-tools/stewardship/spring>
<https://www.unpri.org/investment-tools/stewardship/spring/Investors>
<https://www.unpri.org/investment-tools/stewardship/spring/companies>
- ・ PRI Spring「Spring: a stewardship initiative for nature Participants Terms of Reference」
https://dwtyzx6upklss.cloudfront.net/Uploads/y/l/l/spring_participant_feb_2024_469124.pdf
(上記いずれもアクセス日は、2025年2月8日)
- ・ 野村アセットマネジメント株式会社へのヒアリング（地球・人間環境フォーラムが2024年12月にメール上で実施）